

日本気象学会

九州支部だより

No. 151 2024年12月



発行者
日本気象学会九州支部
〒810-0052
福岡市中央区大濠1-2-36
福岡管区気象台
地域防災推進課内

Tel: 092-725-3614
Mail: info@msj-kyushu.jp
HP: http://msj-kyushu.jp/

今回の記事

- ◆気象教室(12/1)開催報告
- ◆支部会員だより「日本気象予報士会西部支部の活動紹介」
河野 香 氏
- ◆事務局からのお知らせ

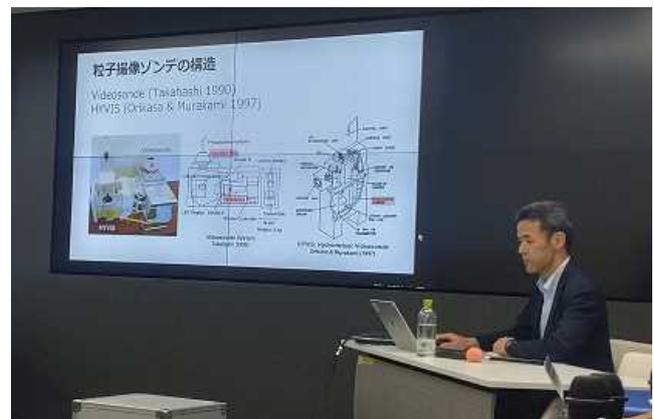
気象教室(12/1)開催報告

九州支部事務局

「雲・降水～気象観測がとらえる雲と雨のリアル～」をテーマに、12月1日(日)に第25回 気象教室を開催しました。会場とオンラインのハイブリッド開催とし、会場5名、オンライン41名(最大)の参加がありました。講演1では衛星により宇宙から初めての雲や雨の鉛直運動の観測について、講演2では粒子撮像ゾンデによる雲内の降水粒子の直接観測についてご紹介頂き、多くの質問を頂くなど盛況のうちに終わることができました。



講演1 「EarthCARE衛星:宇宙からの雲・エアロゾル
・地球放射と 鉛直速度観測」
岡本教授(九州大学応用力学研究所)



講演2 「粒子撮像ゾンデが捉えた降水粒子とそこからわかること」
川野助教(九州大学大学院理学研究院)

支部会員だより

日本気象予報士会西部支部の活動紹介

日本気象予報士会西部支部 河野 香

1994年に気象予報士制度が導入され今年で30年が経過しました。日本気象予報士会はその2年後の1996年に設立されました。会員数は全国で約3300名で、西部支部会員は今年10月現在で123名です（山口12・福岡56・佐賀5・長崎13・大分6・熊本12・宮崎7・その他12名）。

西部支部では例会（原則毎月開催）、防災プロジェクト（Qプロ）、各地お天気フェアへの協力などの活動を行っています。また、個々の会員もそれぞれの地域で気象教育や防災に関する普及活動を行っています。今回は西部支部会員の中から4名の方の活動内容について紹介します。

平河 則明さん（福岡）

私は8年ほど前から西部支部で活動しております。本職は気象と関係ないのですが、週末を中心に气象台や地域の方から依頼を受け、お子さん向けのイベントや一般の方への講演をしております。

私が特に力を入れているのが、防災の啓発です。残念ながら気象庁キキクルの認知度がまだまだ低く、講演の時には各自のスマートフォンから実際にキキクルのサイトに入ってもらおうようにしています。特別警報や線状降水帯予測なども、知られた言葉ながら皆さんが正しい理解をしているとは限りません。

このような情報について、なるべく分かりやすく伝えるよう心がけており、少しでも多くの方に防災意識を高めてもらえればと思っております。



舟津 賢一さん（宮崎）

私は2024年9月より「延岡市恒富地区高齢者生きがい教室」において、気象予報士、気象防災アドバイザーとして「気象予報士と学ぼう、気象災害から命を守る方法」という講座を担当しています。「気象災害とは何か」「延岡市の気象災害」「身のまわりのハザードの確認」「気象情報の入手・活用」「気象災害から命を守る行動」「マイタイムライン作成」について1回60～90分、計6回の講座です。参加される方は意識も高く意欲的に取り組まれています。

課題は、高齢者コミュニティセンターの主催ということもあり、宣伝がゆきとどかなく参加者が少ないことです。2025年1月から2回目の講座を予定していますので、今後、SNSを利用したりクチコミでひろげるなどして、少しでも参加者が増えるよう呼びかけていくつもりです。



8	気象予報士と学ぶ命の守り方	第1・第3金曜日	10:00~11:30	講師：舟津 賢一
		いざという時の準備、どうすればいい？ 激甚化する気象災害、「台風」と「線状降水帯」がもたらす大雨、突然の「落雷事故」や「竜巻等の突風」等から自分と家族の命を守るため、知っておいてほしいことを気象予報士とともに学びます。		
		● 定員：20名	● 教材費：不要	
		● 持ち物：筆記用具、スマートフォン		

大塩 泰義さん（長崎）

2023年4月1日に気象防災アドバイザーの資格を頂きました。しかし資格を得ても資格を生かして長崎県の自治体からの募集はありませんでした。気象庁の予算には、気象防災アドバイザーを養成する予算はあっても地方自治体が気象防災アドバイザーを雇用するための人件費の補助はない

ため、財政が厳しい地方自治体で新たに職員を増やすことなどできないと思います。

私は社会保険労務士個人事務所を経営し、介護事業所の運営の支援を専門にしていますが、介護施設では災害と感染症により事業所の事業が止まらないよう事業継続計画（BCP）を作成する義務があり、自力でBCPを作成することができない小規模事業所の計画を、気象防災アドバイザーとして身に着けたハザードマップの見方、避難情報の読み方を使ってBCP計画を作成しています。作成の際、介護事業所がある市町村のハザードマップを見るのですが、その地方で災害のリスクが全く違っていることがよくわかりました。元日に新潟県、石川県の事業所のBCPを作成していて、地震を引き起こす活断層のハザードマップを見ている最中にスマホで送られてきた石川県能登半島の地震速報には、今まさに見ている断層が動いたのかと驚きました。

また、顧問をしている事業所に、介護サービスを行うかどうかの判断をしてもらうために悪天情報を送っています。保育園・幼稚園からは今度の土日に運動会ができるだろうか、地域の団体からは地域の行事ができるだろうかという問い合わせを受けることがあり、なるべく詳しい情報を行事の前日までにわかりやすい内容にして提供しています。

井上 和博さん（福岡）

川内川あらし協議会では、川内川あらしの予報に取り組んでいます。協議会で観測機器を設置するなどデータの蓄積を図っています。昨シーズン（2023年10月～2024年3月）は37回発生がありましたが、2024年10月はデータ収集（2019年から）開始以降初めて10月の発生がありませんでした（冷え込みが弱い、海水温が高い等が要因）。放射冷却があり満潮時刻が5時台～8時台であればかなりの確率で発生を予想できていましたが、今シーズンは発生が見込まれる条件であっても発生しません。また、発生が困難と思われる条件（黄砂が要因と思われる等）でも発生することも度々あるため、川内川あらしはなかなか気まぐれな現象で言う事を聞いてくれないという印象です。

私たちの協議会では川内川あらしの「世界自然遺産への登録」を目標に掲げています。応援をよろしくお願いします。

協議会公式ホームページ <https://www.sendaigawaarashi.com/>

支部事務局からのお知らせ

■ 今後の支部イベントについて

令和7年2月1日（土）にサイエンスカフェを実施予定です。専門家に鹿児島大学水産学部の中村先生、案内役に気象予報士会西部支部の河野様をお招きし、梅雨期の降水についてお話いただく予定です。

また、令和7年3月2日（日）には支部発表会およびジュニアセッションを開催予定です。

詳細については、決まり次第ご連絡いたします。